# 『マトリョーナの家』の検閲
## —検閲前後の差異に注目して—

羽　田　幸　恵

**Abstract**

Aleksandr Solzhenitsyn finished his early work *Matryona's House* in 1959. However, it was in 1963 that this short story was published in a Russian literary journal, "Novy Mir", the editor of which was Alefsandr Tvardovsky. The paper revisits Solzhenitsyn's way of understanding the world presented in "Matryona's House." This theme has often been especially discussed around his Russian and religious identity. The paper attempts to make a contribution to this research by considering two texts of this short work comparatively: the original 1959 text and the censored 1963 text. After the amendments by the editor Tvardovsky, the Soviet Union authorities censored the text. The paper tries to understand what the original text presented and what the censored text hid from readers so as to clarify a Solzhenitsyn's worldview.

キーワード……マトリョーナの家　ソルジェニーツィン　検閲　ロシア

## はじめに

アレクサンドル・ソルジェニーツィンの初期作品のひとつ、短編『マトリョーナの家』は、脱稿こそ 1959 年であったものの、雑誌"Новый Мир"（新世界）に発表されたのは 1963 年のことであった。4 年もの時を要したのは、この短編の表現に「問題」があったからである。

当初、ソルジェニーツィンは作品題名を、Не стоит без праведника（信心深い人なしでは村は成り立たない）としていた [1)]。しかし、この短編を掲載しようとした雑誌の編集長アレクサンドル・トワルドフスキーは、Матрёнин Двор（マトリョーナの家）、と改題する。彼によると、雑誌掲載の前年に開かれた、当局からきたデメンチエフとの審議会では、この短編の不掲載が決定されていたが掲載をトワルドフスキー自身が決定する。トワルドフスキーは、これまで社会主義に反する作品には掲載許可を出してこなかったが、詩人でもあったトワルドフスキーは、ソルジェニーツィンの描き出した世界観を誰よりもよく理解していた。そして、その改題ののちこの作品はさらに、ソ連当局の検閲を受けることになる。

これまで多くの研究者や批評家が、『マトリョーナの家』にはソルジェニーツィンの思想がよ

りよく表現されていると指摘してきた [2)]。ソルジェニーツィンは自らの宗教的理想を、ロシアの田舎の信心深い女性を通して描き出している、というのである。

そうした読み方は、検閲前の題名や本文に用いられた宗教的表現を見ていくことによって、いっそう意義深いものとなる。実際、トワルドフスキーが題名を変更せざるをえなかった理由が、まさにこれであった [3)]。それは編集長による題名変更にとどまらなかった。ソ連当局が本文中の宗教的表現を検閲の対象とし、修正している。1963 年に雑誌“Новый Мир”に掲載されたのは、そうした検閲後の修正版であった [4)]。

では、本作品は検閲によってどのように変化したのだろうか。ソルジェニーツィンの世界観は、その検閲によっても損なわれず、読者に伝えられたのだろうか。本作品を取り上げたこれまでの研究の多くは、そうした作者の思想に触れようとするものではあった。ただし、たんに印象論的な検討が多いと言わざるをえない傾向もそこには認められる。その点、ソ連当局によって『マトリョーナの家』に加えられた検閲に注目し、その修正点を調べ上げ、この作品のオリジナルの姿を明らかにしていったウルマーノフの研究は注目に値する [5)]。本稿ではこのウルマーノフの研究を基に、さらに独自の分析を加えていく。ウルマーノフは検閲による修正を全て網羅的に挙げているわけではないからである。本稿はその不足部分を補いつつ、検閲前後の本文を比較することによって、ソルジェニーツィンの世界観に迫っていく。

## １　検閲前後の比較

本作品は、1956 年から 57 年にかけて、ソルジェニーツィンが実体験した内容に基づくものである。作品で設定された年代も、まさにその時期に当たる。しかし、それが検閲によって、1953 年の出来事に変更されてしまった。クラソフスカヤが指摘するように、小説なるものは、細部まで緻密に構成された作者の芸術的世界を表現するものである [6)]。自伝的傾向があるにしても、歴史小説や聖者伝としても捉えられる本作品は、この変更によってさまざまな矛盾を抱えることになってしまった [7)]。以下この点に関して、ウルマーノフの研究を参照しつつ、本作品が受けた検閲による修正点を整理する。

### １－１　削除

検閲による修正は、次の三種類に区分することができる。検閲前の文章から削除された箇所、（削除）、次に加筆された箇所（加筆）、そして文言を替えられた箇所（変更）である。まずは削除された箇所をあげていく（表 1）。下線部分が該当箇所を表す。なお、ウルマーノフの先行研究によって挙げられていた箇所かどうかを、右欄に示しておいた [8)]。

**表 1　検閲前後の比較：削除された項目**

| No. | オリジナル版（検閲前）<br>2013 年出版全集所収 | 雑誌版（検閲後）<br>1963 年出版 | ウルマーノフによる研究の有無 |
|---|---|---|---|
| 1 | (...)от Москвы по ветке, что идёт к Мурому и Казани, ещё с добрых полгода после того все поезда замедляли свой ход почти как бы до ощупи(116)<br>モスクワからムーロムやカザンへ行く支線におけるすべての汽車がまるで手探りに進んでいるかのように速度をゆるめた。 | (...)от Москвы еще с добрых полгода после того все поезда замедляли свой ход почти как бы до ощупи. (42)<br>モスクワからすべての汽車がまるで手探りに進んでいるかのように速度をゆるめた。 | 有 |
| 2 | Всё же я подошёл к окошечку (...)(116)　そうではあっても私は窓口に近づいていった | Я подошел к окошечку (...)(43)<br>私は窓口に近づいて行った | 無 |
| 3 | (...), на том свой колхоз возвысив, а себе получив Героя Социалистического Труда.(117)<br>そこで自分のコルホーズの名声を高め、社会主義労働の英雄となった。 | なし(43) | 無 |
| 4 | - однообразные, худо штукатуренные бараки тридцатых годов (...)(117)　同じような形をした 30 年代の薄く漆喰を塗った出来の悪いバラック | - одонообразные бараки тридцатых годов(43)<br>30 年代に建てられた同じようなバラック | 有 |
| 5 | Дом не низкий – восемнадцать венцов (119)　家は高床で、18 もの丸太を使っていた | なし(44) | 無 |
| 6 | - нехитрую затею против скота и чужого человека (119)　家畜や他人による侵入を防ぐための物だった | - не хитрую затею против скота (44)　家畜の侵入を防ぐための物だった | 無 |
| 7 | Здесь было мне тем хорошо, что по бедности Матрёна не держала радио, | なし | 無 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | а по одиночеству не с кем было ей разговаривать (120)<br>マトリョーナの貧しさゆえにラジオを持っていないということは、孤独さゆえに誰とも彼女と会話をしないことよりも、私にとってはるかに快かった。 | | |
| 8 | За палочки трудодней в замусленной книжке учётчика (120)<br>帳簿係のよごれた労働手帳の労働日の欄を棒で消してもらうためである。 | За палочки трудодней в замусленной книжке (45)<br>よごれた労働手帳の労働日の欄を棒で消してもらうためである。 | 有 |
| 9 | Вышел перед тем новый пенсионный закон, и надоумили её соседки добиваться пенсии (123) その前に新しい年金の法律が発布されると、隣人がマトリョーナに年金をもらうように言った | なし(47) | 有 |
| 10 | Уже закруживалось пугающее дыхание зимы – и щемило сердца (124) すでに冬の恐ろしい嵐が吹きはじめていた—そして心を締め付けた | Уже закуруживалось пугающее дыхание зимы (47)<br>すでに冬の恐ろしい嵐が吹きはじめていた | 有 |
| 11 | Председатель (...) смотрел в глаза требовательно, или мутно, или простодушно (...) (124)<br>議長は(…)みんなの顔色をうかがいながら、時に口やかましく、時にぼんやりとし、時におおらかな調子で、(…) | Председатель (...) смотрел в глаза требовательно или простодушно (...) (48)<br>議長は(…)みんなの顔色をうかがいながら、時に口やかましく、時におおらかな調子で、(…) | 有 |
| 12 | (...) а то и до снега, если дорога не станет или трест затомошился (124)<br>あるいは雪が降るまで、道路が寸断 | (...) а то и до снега, если дорога не станет (48)<br>あるいは雪が降るまで、道路 | 有 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | されないか、もしくは中央管理局が騒ぎまわらなければ (…) | が寸断されないか(…) | |
| 13 | Да они и колхозницы до самых белых мух всё в колхоз, всё в колхоз, а себе уж из- под снегу(125)　そう、彼ら、コルホーズ員も雪が降り出す前に、すべてをコルホーズへ、すべてをコルホーズへと刈るのさ。 | Да они и колхозницы до самых белых мух всё в колхоз, а себе уж из- под снегу (48)<br>そう、彼ら、コルホーズ員も雪が降り出す前に、すべてをコルホーズへと刈るのさ。 | 無 |
| 14 | Впрочем, и за пятнадцать соток потягивал колхоз Матрёну. Когда рук не хватало, когда отнекивались бабы уж очень упорно (...) (126)　といっても、15 アールもの区画をコルホーズはマトリョーナにさせていた。手が足りないときや、女性たちが頑固に仕事を断った時、 | Впрочем, когда рук не хватало, когда отнекивались бабы уж очень упорно (...) (49)<br>といっても、手が足りないときや、女性たちが頑固に仕事を断った時、 | 有 |
| 15 | - Больше денег ей, старой, и девать некуда. - А что - пенсия? –возражали другие. – Государство – оно минутное. Сегодня, вишь, дало, завтра отымет (128)<br>「たくさんのお金は老婆には使い道がないよ」「それで、年金は？」他のものが反論した。「国だよ、そこが一時的にね。それがね、今日は上げるが、明日は減らすのさ」 | - Больше денег ей, старой, и девать некуда (50)<br>「たくさんのお金は老婆には使い道がないほどだよ」 | 有 |
| 16 | Всегда у неё бывала святая вода, а на этот год не стало(129)<br>いつもなら聖水があるのだが、この年はなくなっていた。 | なし(51) | 無 |
| 17 | И – песню, песню под небом, какие давно уже отстала деревня петь, да и не споёшь при механизмах | И – песню, песню под небом, каких теперь, при механизмах, не споешь (53) | 有 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | (133)　そして、歌、空の下の歌、もうずいぶんと前から田舎では歌わなくなった、機械時代に全く歌われなくなってしまった歌を。 | 　そして、歌、空の下の歌、もう機械時代の今は、歌われなくなってしまった。 | |
| 18 | А за часы-то, часы, самогонный запах подразвеялся(139)<br>　何時間たっても、密造酒のにおいが漂っていた。 | 　なし(57) | 無 |
| 19 | Я вернулся в избу, отвёл полог и прошёл в кухоньку (139)<br>　私は家のなかへ戻り、とばりをよけ、台所に入った。 | Я отвёл полог и прошёл в кухоньку (58)<br>　私はとばりをよけ、台所に入った。 | 有 |
| 20 | Тут самогонный смрад ещё сохранялся, ударил в меня.(140)　そこは密造酒の悪臭がまだ残っており、私に襲いかかってきた。 | Самогонный смрад ударил в меня(58)<br>　密造酒の悪臭が私に襲いかかってきた。 | 無 |
| 21 | Я кинулся всё убирать. Я полоскал бутылки, убирал еду, разносил стулья, а остаток самогона спрятал в тёмное подполье подальше.<br>　И лишь когда я всё это сделал, я встал пнём посреди пустой избы: (…)(140)<br>　私は全てを一掃した。ビンを洗い、食べ物を片づけ、それぞれに椅子をしまい、残った密造酒は暗い地下室のなかのなるべく奥の方にしまいこんだ。<br>　終わってしまったら、私は空になった家の真ん中で呆然としていた。 | 　なし (58) | 有 |
| 22 | Идти мне было некуда. Ещё придут сами ко мне, допрашивать. Утром ждала меня школа (141) | Утром ждала меня школа (59)<br>　朝になれば学校が待っていた。 | 有 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 行くべき場所はなかった。また私のもとへ取り調べにやってくるだろう。朝になれば学校が待っていた。 | | |

出典：Урманов(«Матрёнин Двор» А. И. Солженицына: Художественный мир. Поэтика. Культурный контекст: Сборник научных трудов/ Под ред. А. В. Урманова. – Благовещенск: Изд-во БГПУ, 1999. С.60-61)をもとに追加して作成。
凡例：雑誌『新世界』(Новый Мир)（1963 年第 1 号）に掲載された Матрёнин двор と、Солженицын А. И. Собрание сочнений в 30 томах. Т. 1. Рассказы и Крохотки. – М.: Время, 2013.を参照した。それぞれの原文が掲載されていたページ数を括弧内に記入した。日本語訳は木村浩（『マトリョーナの家』新潮社、1973 年）を参照しつつ、適宜筆者自身による変更を加えた。

以上の削除箇所はそれぞれ、貧困の描写（No.4, 5, 7, 10, 20）、悪政の表現（No.8, 9, 11, 13, 14, 15）、国のイメージを汚す場合（No.3, 6, 12, 22）、宗教的な問題（No.16, 19）に分けられる。その他にも適宜修正を加えられている。削除されている箇所のほとんどが、国家の名誉に関わるものであるが、この中で、No.16 に注目したい。宗教的な表現と見られる Святая вода（聖水）が削除されたところである。これはウルマーノフがリストアップしなかった検閲箇所である。前後の文脈から考えると、「いつもあるはずの聖水がこの年にはなくなっていた」、つまり、聖水を新しくすることができないくらい貧困生活を強いられていた、と読めなくもないが、宗教的表現のひとつがここで削除されてしまっていることに、注意を引いておきたい。

## １－２　加筆

次は加筆された箇所をあげていく（表 2）。

**表 2　検閲前後の比較：加筆された項目**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 23 | Топлива не было положено (...) (124)　燃料は支給されてないし、 | Тальновским топлива не было положено (...) (48)　タリノヴォの住民たちには燃料は支給されてないし、 | 有 |
| 24 | Это-то время бабы его и брали (124)　この時期女性たちは泥炭を取ってくるのだ | За это-то время бабы его и брали (48)　この時期の間に女性たちは泥炭を取ってくるのだ | 有 |
| 25 | (...) да так и заглохло (127)　それっきり音沙汰がなかった | (...) да так и заглохло. Была тут вина и Матрёны самой (50)　それっきり音沙汰がなかった。もっ | 有 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | ともこれはマトリョーナ自身にもいくらか責任があったのだが。 | |
| 26 | И деревня Тальново, и язык русский изглаживаютсь из памяти его (131)　タリノヴォという田舎も、ロシア語も彼の記憶から消し去られて | И деревня Тальново, и язык русский изглаживались бы из памяти его (52)　タリノヴォという田舎も、ロシア語も彼の記憶から消し去られているのだろうか | 有 |
| 27 | - Одна дочка только родилась, (...)(134)　「女の子が一人生まれて、(…) | - Одна дочка, Елена, только родилась,(...)(54)　「一人の女の子は、エレーナといって、生まれて、(…) | 無 |
| 28 | И вот он зачачтил к нам, пришёл раз, наставительно говорил с Матрёной и требовал, (...)(135)　こうして、彼は私たちの元へたびたび行き来するようになり、説教的にマトリョーナと話し、(…) | И вот он зачачтил к нам, пришёл раз, ещё раз, наставительно говорил с Матрёной и требовал, (...)(55)　こうして、彼は私たちの元へ何度も行き来するようになり、説教的にマトリョーナと話し、(…) | 有 |
| 29 | Кого - их? (139)　彼らとはー誰のことだ？ | Ошеломлённый я вернулся в избу. Кого - их? (57-58)　びっくりして、私は家のなかへ戻って行った。彼らとはー誰のことだ？ | 有 |
| 30 | Говорил: люблю одеваться культурно, а она – кое-как, всё по-деревенски. А однаво (...) (147)　彼はこう言っていた。文化的な服を着る人が好きなんだ、だけど彼女はいい加減だ。すべてが田舎っぽいとね。一度、(...) | Говорил: люблю одеваться культурно, а она – кое-как, всё по-деревенски. Ну, раз, мол, ей ничего не нужно, стал все излишки пропивать. А однаво (...) (62)　彼はこう言っていた。文化的な服を着る人が好きなんだ、だけど彼女はいい加減だ。そんなに服にお金を使う必要がないのなら、余ったお金を飲み代に使ってしまったよ、とね。一度、(...) | 有 |

出典：表 1 に同じ。

検閲前の本文に加筆された箇所は以上 8 か所である。当時の状況を直接描写しているため、加筆することによって表現を和らげ、検閲を通過したと考えられるだろう。これらはいずれも

表現を曖昧にすることによって、ソ連当局が責任の所在を転嫁させていると考えることができる。具体的に表現すると、貧困や地域の不当な扱いが和らぐためであると推測できるだろう。

## １－３　変更

次に変更した箇所をあげていく（表 3)。

表 3　検閲前後の比較：変更された項目

| | | | |
|---|---|---|---|
| 31 | Не стоит село без праведника<br>信心深い人なしでは村は成り立たない（作品のタイトル） | Матрёнин Двор<br>マトリョーナの家（作品のタイトル） | 有 |
| 32 | Летом 1956 года (...) (116)<br>1956 年の夏 | Летом 1953 года (...) (42)<br>1953 年の夏 | 有 |
| 33 | (...)Владимирского облоно(117)<br>ウラジーミル州の | (...) ...ского облоно(43)<br>…州の | 有 |
| 34 | - Скажите, не нужны ли вам математики? Где-нибудь подальше от железной дороги?(116)<br>すみませんが、数学教師は必要じゃないですかね。どこか線路から離れたところで。 | - Скажите, не нужны ли вам математики где-нибудь подальше от железной дороги?(43)<br>すみませんが、どこか線路から離れたところで数学教師は必要じゃないですかね。 | 無 |
| 35 | Горшков(117)　ガルシュコーフ | Шашков(43)　シャーシュコフ | 有 |
| 36 | (...) пображивать пьяные да подпыривать друг друга ножами(118)<br>酔っ払いたちがぶらつき、お互いにナイフでやりあう | (...) пображивать пьяные – не без того, чтобы пырнуть друг друга ножом(43)<br>酔っ払いたちがうろつき、おそらくお互いにナイフでやりあうのだろう | 有 |
| 37 | Я оказался квартирантом выгодным (...)(118)　私は下宿人として利益があることが分かった | Я казался квартирантом выгодным (...)(44)　私は下宿人として利益があるらしかった | 無 |
| 38 | (...), везде было тесно и лопотно (118)　いたるところ狭く、激しい音がしていた | (...), было тесно и шумно (44)<br>狭くて、騒々しかった | 無 |
| 39 | одинокая женщина лет | одинокая женщина лет под | 有 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | шестидесяти (119)　60 歳くらいの一人の女性 | шестьдесят (44)　60 歳に近い女性 | |
| 40 | (...) ещё у одного окна поставил стол (120)　さらに一つの窓のそばに、机が置かれてあった | (...) еще у одного окна поставил столик (45)　さらに一つの窓のそばに、小さな机が置かれてあった | 無 |
| 41 | Всё из того же, картовь или суп картонный (123)　やはりじゃがいもかおじゃがのスープだった | Все из того же, *картовь* или суп *картонный* (47)　やはり*じゃがいも*か*おじゃがのスープ*だった | 無 |
| 42 | Но мужа не было уже пятнадцать лет (123)　しかし、夫がいなくなり、15 年たっており | Но мужа не было уже двенадцать лет (47)　しかし、夫がいなくなり、12 年たっており | 有 |
| 43 | Тотчас же она или хваталась за лопату и копала картовь (124)<br>彼女はすぐにシャベルをつかみ、じゃがいもを掘り出した | Тотчас же она или хваталась за лопату и копала *картовь* (47)<br>彼女はすぐにシャベルをつかみ、*じゃがいも*を掘り出した | 無 |
| 44 | - Кому часу приходить-то? (126)<br>何時に行けばいいですか？ | - Какому часу приходить-то? (49)<br>何時に行けばいいですか？ | 有 |
| 45 | - Да что говорить, Игнатич! Ни к столбу, ни к перилу у них работа. Станешь, об лопату опершись, и ждёшь, скоро ли с фабрики гудок на двенадцать. Да ещё заведутся бабы, счёты сводят, кто вышел, кто не вышел. Когда, бывалоча, по себе работали, так никакого звуку не было, только ой-ой-ойиньки, вот обед подкатил, вот вечер подступил.<br>Всё же поутру она уходила со своими вилами (126)<br>だってねぇ、イグナーチチ！あの人たちの仕事の仕方ったら、見ちゃいられないよ。シャベルによりかかって、突っ立って、早く 12 時のチャ | - Да что говорить, Игнатич! Помочь надо, конечно, - без навозаим какой урожай? А только ни к столбу, ни к перилу у нтх работа: станут бабы, об лопаты опрешись,и ждут, скоро ли с фабрики гудок на двенадцать. Да ещё заведутся, счёты сводят, кто вышел, кто не вышел. По мне работать – так чтоб звуку не было, только ой-ой-ойиньки, вот обед подкатил, вот вечер подступил.<br>Поутру она уходила со своими вилами (49)<br>だってねぇ、イグナーチチ！手を貸さなきゃいけないことは、当たり前よね。肥料がなけりゃ、作物はどうやっ | 有 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | イムが工場から聞こえないか待っているのさ。そして、女たちはだれが出勤かだれが欠勤か、という帳簿をつけているんだ。自分で働くときは、チャイムに頼らず、ただオイ・オイ・オイと言ってる間に、あらお昼だ、あら夜だとなるものだ。<br>それでも朝早く、彼女は自分の熊手をもって出かけて行った | て育つ？だけど、あの人たちの仕事の仕方ったら、見ちゃいられないよ。みんなシャベルによりかかって、突っ立って、早く工場から 12 時のチャイムが聞こえないか待っているのさ。そして、だれが出勤だの、だれが欠勤だのと、帳簿につけてるんだ。私の仕事のやり方なら、チャイムがしならなくったって、ただオイ・オイ・オイと言ってる間に、あらお昼だ、あら夕方だとなるものだ。<br>朝になると、マトリョーナは、結局、自分の熊手を抱えて出かけていくのである。 | |
| 46 | А дело всякое начинала «с Богом!» и мне всякий раз «с Богом!» говорила, когда я шёл в школу (129)<br>あらゆることを「うまくいきますように！」で始めたし、私が学校へ行くとき、毎回「うまくいきますように！」と言ってきた。 | А дело всякое начинала «с богом!» и мне всякий раз «с богом!» норовила сказать, когда я шёл в школу (51)<br>あらゆることを「うまくいきますように！」で始めたし、私が学校へ行くとき、毎回「うまく行きますように！」と言う機会をうかがっていた。 | 有 |
| 47 | Был святой угол в чистой избе, и иконка Николая Угодника в кухоньке (129)　清らかなる家には聖なる隅があり、台所には聖者ニコライのイコンがあった。 | Висели в избе иконы (51)<br>家にはイコンが掛けてあった。 | 有 |
| 48 | Мой приёмничек уже не был для меня бич, потому что я своей рукой мог его выключить в любую минуту; но, действительно, выходил он для меня из гухой избы – разведкой). В тот год повелось по две, по три иностранных делегации в неделю | Услышав по радио, что машины изобретены новые, ворчала Матрёна из кухни:<br>- Все новые, новые, на старых работать не ходят, куда старые складывать будем?<br>Передавали, как облака разгоняют с | 有 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | принимать, провожать и возить по многим городам, собирая митинги. И что ни день, известия полны были важными сообщениями о банкетах, обедах и завтраках. Матрёна хмирилась, неодобрительно вздыхала:<br>- Ездят-ездят, чего-нибудь наездят. Услышав, что машины изобретены новые, ворчала Матрёна из кухни:<br>- Всё новые, новые, на старых работать не ходят, куда старые складывать будем?<br>Ещё в тот год обещали искусственные спутники Земли. Матрёна касала головой с печи(129-130)<br>ラジオはもう私にとって不幸なものではなかった、それは自分の手ですきなときにスイッチを切ることができたから。しかし、実際、私にとってラジオはひっそりとした家、つまり、偵察から生じたのであった。）その年、2・3の外国代表団を1週間にわたってさまざまな街へと会議のためにガイドし、運転をして待遇した。毎日パーティーやランチ、朝食についての重要な情報がスケジュールに入っていた。マトリョーナは顔をしかめ、うんざりとしたため息をついた。<br>「くるよ、くるよ、なんか変わるよ。」 | самолётов, - Матрёна качала головой с печи (51)<br>マトリョーナは新しい機械が発明されたとラジオから聞こえたとき、台所からぶつぶつ言いながらやってきた。<br>「全部が新しい、新しいって、古いのはどこへ隠すんだろうね、ほしがらないのかね？」<br>飛行機で雲を追い散らすというニュースを聞いて、マトリョーナは暖炉の上で首を振った。 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 機械が新しく発明されたと耳にすると、マトリョーナは台所からぶつぶつ言いながら出て来た。<br>「すべてが新しいもの、新しいものって、古い物は欲しくないって？それじゃあ古いものはどこに隠すのかね？」<br>さらにその年に、地球の人工衛星の打ち上げを政府は約束した。マトリョーナは暖炉から首を横に振った。 | | |
| 49 | Не мешала она моим долгим вечерним занятиям, не досаждала никакими расспросами (130)<br>彼女は私の夜遅い仕事の邪魔をせず、どんなに詳しい質問をして不快にしなかった。 | Она не досаждала мне никакими расспросами (51)<br>彼女はどんな詳しい質問をして不快にしなかった | 有 |
| 50 | (...) ни старшей золовки незамужней (...) (130)　結婚していない義姉も | (...) ни незамужней старшей золовки (...)(52)　結婚していない義姉も | 有 |
| 51 | За одиннадцать послевоенных лет(131)　戦後 11 年間 | За восемь послевоенных лет(52)<br>戦後 8 年間 | 有 |
| 52 | Лишь поздно вечером, когда я думать забыл о старике и писал своё в тишине избы под тараканов и постук ходиков, (...)(132)　ただ、晩遅くに私が老人のことなんか忘れて、静寂の家の中、かさかさというゴキブリの音と柱時計が時を刻む音の中、自分のことを書こうとしたとき (...) | Лишь поздно вечером, когда я думать забыл о старике и работал в тишине избы под тараканов и постук ходиков, (...)(132)　ただ、晩遅くに私が老人のことなんか忘れて、静寂の家の中、かさかさというゴキブリの音と柱時計が時を刻む音の中、仕事をしようとしたとき (...) | 無 |
| 53 | Несмотря что спина его не распрямлялась вся (...) (136)　彼の背 | Несмотря на то, что спина его не распрямлялась вся (...) (55)　彼の背中 | 有 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 中はしゃんと伸びないにも関わらず、(…) | はしゃんと伸びないにも関わらず、(…) | |
| 54 | Я тоже влез в телогрейку и сел за стол (138)　私も上着をからだに巻き付け、机に向かった。 | Я тоже влез в телогрейку и сел проверять тетради (57)　私も上着をからだに巻き付け、ノートをチェックし始めた。 | 有 |
| 55 | Приёмник моё молчал (...) (138)<br>ラジオ受信機は黙りこくり、 | Радио мое молчало (...) (57)<br>ラジオは黙りこくり、 | 有 |
| 56 | Все четверо щурились, оглядывались в полутьме при настольной лампе (139)　4 人全員が目を細め、卓上ランプの薄暗がりの中、周囲を見回していた。 | Все четверо щурились, оглядывались в полутьме от настольной лампы (57)　4 人全員が目を細め、卓上ランプの薄暗がりで、周囲を見回していた。 | 有 |
| 57 | В избу, пошатываясь, вошла её подруга Маша (...) (140)<br>よろめきながら家の中に、マトリョーナの友達のマーシャが入ってきた。 | Дверь со двора открылась. Пошатываясь, сжимая руки, вошла её подруга Маша (...) (58)<br>庭のほうからドアが開いた。両手を握りしめるように、よろめきながら入ってきたのは、マトリョーナの友達のマーシャだった。 | 有 |
| 58 | (...) для которой ломали и везли эту горницу (144)　彼女のために壊し、この部屋を運び出した | (...) для которой везли и ломали эту горницу (60)　彼女のために運びだし、この部屋を壊した | 有 |
| 59 | (...) и неразгибной спиной (...) (145)<br>背中をまっすぐにのばさず | (...) и с неразгибающейся спиной своей (...) (61)　まっすぐにのばしていない自分の背中と | 有 |
| 60 | Спели «Достойно есть» (146)<br>“賞賛された御糧”をうたった | Спели «Достойная есть» (62)<br>“賞賛すべき御糧”をうたった | 有 |
| 61 | И опять, с тройным повтором (...) (146)　そしてまた、3 度繰り返して、 | И опять, с тройным повторением (...) (62)　そしてまた、3 度反復し、 | 有 |
| 62 | - ведь поросенок-то при каждой избе! (147)　たしかに子豚なんかどの家にもいる！ | - ведь поросенок-то в каждой избе! (63)　たしかに子豚なんかどの家にもいる！ | 無 |

出典：表 1 に同じ。

ウルマーノフは検閲前後の本文を比較分析していたが、決して詳細に論じているわけではない。とくに、ウルマーノフは著書『アレクサンドル・ソルジェニーツィンの作品』（Творчество Александра Солженицына）の中で、年の変更と宗教に関しては貧困やコルホーズの実態に比べて文字数を割いている。だが、ウルマーノフが比較した表で検閲前後を比較分類してみると、修正箇所の多くが貧困の部分であることがわかる。しかし、それだけではない。検閲前後を比較すると、62 か所もの修正点を見つけ出すことができた。3 つ目の変更点は、全体の半分近くにも上る箇所が該当する。そのほとんどが細かい文法の点となるが、題名にもある「家」の同義語である изба（百姓家）や горница（部屋）の箇所が変更箇所として挙げられている点に注目したい。宗教用語として力を持っているわけではない単語ではあるが、изба には必ずと言っていいほど、内部に красный угол（聖なる隅）や икон（イコン）が飾られている。部屋の空間構造についてはあらためて別の機会に論じる必要があるが、このことも修正対象として挙がった理由の一つと考えられるだろう。

## ２　考察

ここまで、検閲後の 1963 年雑誌掲載版と検閲前の 2013 年最新全集版とを比較してきた。ソ連当局がどのような言葉に注目し、修正を加えてきたかについて、削除・加筆・変更の三点に分けて、網羅的に整理した。こうした数々の検閲の中でも最も重要となり、他の検閲項目の解釈にも影響を及ぼすのが、題名に関連した検閲である。上記表 3 の No.31 がそれにあたる。

1950 年代末から 1960 年代前半にかけてフルシチョフによる雪解けの時代であったにもかかわらず、当時のソ連ではいまだ「神」を表す言葉が бог と小文字にすることを強要されていた。同様に、праведник も大々的な使用を控えざるをえなかったのであろう。ソルジェニーツィンは雑誌編集長に提示された題名の変更を受け入れ、『マトリョーナの家』となった。

しかし、その語の使用が大きな問題となるのであれば、本文中の宗教的表現もすべて、排除されなければならない。ところが、本文には церковь や красный угол をはじめ、いくつも宗教的表現がちりばめられ、先に述べた бог（神）は 8 回も使われている。雑誌編集長が、本文に出てくる宗教的表現を全て取り去らず、題名の праведник は排除し本文では残したのはなぜか。

そもそも праведник はなぜ宗教用語だとみなされうるのであろうか。ソルジェニーツィンが常用していたダーリの辞書によれば、この語は実に「神の掟の下で行動する汚れのない人、戒律を守って暮らしている人」を意味するのである [9)]。内村はこれが「聖者なくしては都は立ちゆかず、義しい者なくしては村落は立ちゆかぬ」“Не стоит город без святого, селение без праведника”ということわざを参照したものであると指摘している [10)]。それは、実はこの物語

の末尾にも用いられている表現である。

> Все мы жили рядом с ней и не поняли, что есть она тот самый праведник, без которого, по пословице, не стоит село. /Ни город. /Ни вся земля наша[11)].
> わたしたちは彼女のそばで生活してきたが、彼女がまさに信心深い人だということを理解してなかった。ことわざ通りでその人なしでは村は成り立たないということを。／まちも。／私たちの地球全体も。

内村が指摘しているようにソルジェニーツィンはこのことわざを原文通りに使っているわけではないが、旧題名で使用されていた праведник を使っている。題名では使用が認められなかった言葉の使用が検閲によって省かれなかったことは、トワルドフスキーによる校閲が行われたおかげかもしれない。

> 真の芸術家である彼は、ここに描かれているのは嘘だと、わたしを非難することができなかった。しかし、これこそ完全に真実であると認めることは、彼の党員としての社会的信念をゆるがすものであった[12)]。

つまり、トワルドフスキーは自分のソ連社会での地位よりも、編集長としての責務のほうを優先させた結果だったのであろう。また、題名変更後に、宗教的教訓的表現を載せたまま出版することは免れた当局だが、はたして本当に題名の変更だけで、宗教色は薄まったのだろうか。

宗教的色彩の濃い作品世界は、何も旧題名だけで描かれていたわけではない。ウルマーノフは、空間的な観点からもまた、本作品に宗教的表現を認識できると指摘する[13)]。もう一人の主人公であり語り手でもあるイグナーチチは、マトリョーナと会う前、Высокое Поле（高い野原）に向かっていた。ウルマーノフによると、そこは普通の人々が住んでいる下界よりも、より神の世界に近い場所なのだという。イグナーチチにとって、そこは理想的な世界が広がっていくべき場所であった。ただ、生身の人間に必要な食は、そこには存在しない。そこでは生きられないイグナーチチは Высокое Поле から下り、Торфопрадукт（泥炭生産地）に腰を落ち着ける。こうした「垂直方向」の移動という配置は、イコンに関係しているがゆえに重要であると、ウルマーノフは指摘する[14)]。上記の表 3 の No.47 に示した通り、красный угол（聖なる隅あるいは美しい隅）が検閲前の本文から削除されている。聖なる隅は изба（百姓の家）には宗教的メタファーだと、とらえることもできる[15)]。ウルマーノフは、イコンには、画面の上部に神の世界、下部に悪魔の世界が描かれ、これはマトリョーナの日常生活世界の空間的構図に重なるとしている。さらに、上部にはイグナーチチの理想世界であったはずの Высокое Поле が、下部には Торфопродукт が存在する。その語は地面の下方に存在する торф（泥・泥炭）の語で造られた[16)]。つまり、イグナーチ

チはここに住まうことになるのだが、悪魔の世界にわざわざ自らの生活の場を定めることにしたのは、そこにまさにマトリョーナが存在したためである。このように、本作品には多くの宗教的表現がちりばめられている。そうした表現が用いられながら、多くは削除されずに検閲を通過している。これに関してはソルジェニーツィン自身も『仔牛が樫の木に角突いた』の中で、トワルドフスキーに求められた修正箇所について次のように述べている。

> とりわけ農村の素材に関しては、機微を突いていることがわかった。たとえば、“村の大工”と言ってはならない、なぜなら農村ではだれもが大工だからだとか、“薄板こまい”などというものはありえないとか、子豚が肥っていれば貪欲ではないとか、（…）だった。さらに彼は、副動詞というのは民衆の話法には固有ではないから、“かきまわして、粉をこねて、焼く”というような文章はいけないと、ひどくこだわった。しかし、この場合にはわたしは同意しなかった。なぜなら、わが国のことわざの中には、そういうひびきのするものがあるからである [17)]。

60 年代は『マトリョーナの家』を文学的視点として扱うような時代ではなかったと指摘する研究者もいる [18)]。ただのイデオロギー、誇張、強調、教訓の存在する散文としてとらえられた。そのような社会的な批判からも免れるために修正は必須だったのかもしれない。

そしてこの作品『マトリョーナの家』は、ソルジェニーツィン全集全 30 巻にみられるように [19)]、すでに検閲前の文体に変更されている [20)]。しかし、その原文通りの日本語訳、つまりソルジェニーツィンの描写したかった世界観をもとのままに維持した日本語訳は、未だ刊行されていない。

## おわりに

本論文の目的は、ソルジェニーツィンの短編『マトリョーナの家』の検閲前後の本文比較分析を進めることであった。彼によって創作された小説の芸術的世界は、一字一句がすべて計算された世界だ。しかしその世界観は、彼の生きた時代にあっては、表立って表現されることの許されない内容を含んでいた。それは検閲によって崩壊したかに見えたが、実は少なからず残された。雑誌『新世界』の編集長アレクサンドル・トワルドフスキーによってある程度は守られたと考えられるからである。そもそもソルジェニーツィンが検閲にもかかわらず出版を決意したのは、自分の作り上げた世界の原型が作品の内にとどめられていたからであろう。なぜなら、彼が検閲に通るよう校閲をし、他からの圧力にも屈せず本作品を出版するに至らせたからだ。

多くの研究者によって、『マトリョーナの家』にはソルジェニーツィンの思想が描き出されていると指摘されてきた [21)]。本稿ではこれを、検閲前後の本文比較を通じて明らかにしようと試みた。本作品に描き出されたその思想は、宗教的な志向性をもっていた。検閲による語句の修

正に注目した本稿の検討は、その検閲後の修正個所の要因の一つに宗教的志向性が挙げられることを改めて明確にした。これにより本作品は、ソルジェニーツィンの宗教思想が表現された作品であることがわかった。題名も含めて検閲前の本文を再現する限り、ソルジェニーツィンの宗教的なものに対する意識は、彼の他の作品を読み解いていくうえでも、決して軽視することのできない重要な視点である。この点を改めて意識していく必要があるだろう。

## ＜注＞

1) アレクサンドル・ソルジェニーツィン『仔牛が樫の木に角突いた』新潮社、1976 年、34 頁。
2) たとえば、内村剛介（陶山幾朗編『内村剛介著作集　第 3 巻』恵雅堂出版、2009 年）や木村浩（『ロシアの心・ロシアの風景』日本放送出版協会、1985 年）、陶山幾朗（『シベリアの思想家』風琳堂、1994 年）、最近では井上まどか（「ユートピアがディストピアになるとき」『清泉女子大学人文科学研究所紀要』第 35 号、2014 年）などの指摘を参照のこと。なお、井上は「唯一の正教/キリスト教的表象と言えるのは、最後の“義人（プラヴェードニク праведник）”である」と述べたうえで、この語以外に宗教的記述はない－たとえば帝政時代の農村家屋にあったイコンを祀る“赤い隅 красный угол”についての記述などがない－と指摘している。たしかに、検閲後に出版された 1963 年の雑誌“Новый Мир”に掲載された本文をもとにした邦訳には、井上が指摘したように直接的な表現はない。しかし、以下検討していくように、検閲前の本文を見ていくと、そうした指摘は修正しなければならない。
3) Сараскина Л.И. Солженицын. – М.: Молодая гвардия, 2009. С. 506.
4) Там же, С. 517.
5) «Матрёнин Двор» А. И. Солженицына: Художественный мир. Поэтика. Культурный контекст: Сборник научных трудов/ Под ред. А. В. Урманова. – Благовещенск: Изд-во БГПУ, 1999.  と、Творчество Александра Солженицына: Учеб. Пособие -3-е – М.: Флинта: Наука, 2009.
6) Красовская С. И. “Матрёнин Двор”: автор, повествователь, герой // «Матрёнин двор» А. И. Солженицына: Художественный мир. Поэтика. Культурный контекст: Сборник научных трудов/ Под ред. А. В. Урманова. – Благовещенск: Изд-во БГПУ,1999. С.99-100.
7) Старыгина Н. Н. Праведник: образ-понятие и образ персонаж // «Матрёнин двор» А. И. Солженицына: Художественный мир. Поэтика. Культурный контекст: Сборник научных трудов/ Под ред. А. В. Урманова. – Благовещенск: Изд-во БГПУ,1999. С.128-129.
8) «Матрёнин Двор» А. И. Солженицына: Художественный мир. Поэтика. Культурный контекст: Сборник научных трудов/ Под ред. А. В. Урманова. – Благовещенск: Изд-во БГПУ, 1999.  と、Творчество Александра Солженицына: Учеб. Пособие -3-е – М.: Флинта: Наука, 2009.を先行研究として使用した。
9) 陶山幾朗編『内村剛介著作集　第 3 巻』恵雅堂出版、2009 年、332 頁。
10) 前掲注 9 掲載書、332 頁。
11) Солженицын А. И. Собрание сочнений в 30 томах. Т. 1. Рассказы и Крохотки. – М.: Время, 2013. С.148.
12) 前掲注 1 掲載書、37 頁。
13) А. В. Урманов. Художественное мироздание Александра Солженицына. – М.: Русский путь, 2014. С.515-517.
14) Там же, С.516.
15) 「垂直方向」やメタファーについての詳しい記述は稿を改めたい。
16) Там же.
17) 前掲注 1 掲載書、56 頁。
18) ПетрВайль, Александр Генис. 60-е. Мир советского человека. Послесл. Л. Аннинского. –М.: Новое литературное обозрение, 1996, С. 249.
19) Солженицын А. И. Собраний в 30 томах. Т. 1. Рассказы и Крохотоки. – М.: Время, 2013.
20) 本稿で使用したのは 2013 年版であるが、これは 2006 年にソルジェニーツィンが全集作成にあたって編集された本文になっている。それを出版したのが 2013 年になるので、本稿では 2013 年と記載している。
21) たとえば、これまで何度もふれてきた Урманов や阿部軍治、Robert Louis Jackson、内村剛介をあげることができるだろう。

主指導教員（鈴木正美教授）、副指導教員（堀竜一教授・番場俊准教授）